非核・いしかわ

2023年10月20日　月刊第303号

〒920-0848 金沢市京町28-8　石川民医連労働組合気付
非核の政府を求める石川の会
TEL 076-251-0014　FAX 076-251-3930
http://hikakuishikawa.com/

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の署名は93か国、批准は69か国（10月15日現在）

1面 映画『声をあげる高校生たち』ナレーターを引き受けて　斉藤とも子
3面 ヤマトンチュとして沖縄に向き合う ―沖縄戦を繰り返さないために―　西尾慧吾
4面 自公政権に替わる新たな政権構築の展望を求めて　纐纈　厚
6面 失われた30年―地方都市の現実　永山孝一
YouTube奮闘記　神田順一
7面 核禁条約批准が69ヵ国に ＜独標＞20分あるなら編集室より　ななお瑠津
8面 戦争遺跡と平和の記念碑　佐藤公男
絵手紙コーナー　坂本朋子

【トーク要録】

ドキュメンタリー映画『声を上げる高校生たち』

―核兵器禁止条約への署名・批准を―

ナレーターを引き受けて　斉藤とも子

トークイベントの聞き手は五十嵐正博さん㊨

被爆者とのかかわりを語る斉藤とも子さん

一〇月一日、核禁条約署名石川県連絡会主催のドキュメンタリー『声を上げる高校生たち―核兵器禁止条約への署名・批准を』上映会＆斉藤とも子さん（同映画ナレーター）トークイベントが開催された。トークの要旨を報告する。なお、文章化するにあたって順序を再整理した。

◆「きのこ会」との出会い

原爆小頭症をご存じでしょうか。妊娠初期に、爆心地から近距離で胎内被爆したことで発現することのある障害です。ほとんどの方は、妊娠二～四か月頃に一・五km以内で被爆されていて、七〇〇～八〇〇mという近距離の方もありました。両手にすっぽり入る、子猫のような大きさで生まれた子もいます。障害の程度は様々ですが、脳の発育を阻害されたために知的障害があります。この問題を、原爆投下二〇年後、広島のジャーナリストがつきとめ、一九六五年六月に原爆小頭症児の親子の会「きのこ会」が発足しました。

花鳥風月

突然だが「ファクトチェック」という言葉をご存じだろうか。日本語で言えば真偽検証だとか事実確認と言われる。そもそも、悪質な誤情報に踊らされないことが肝要だが、一度入手した情報が間違っていたときはどうすべきか▼それに関連して興味深い調査結果が発表された。詳細は省くが、本年五月に名古屋工業大学の田中優子准教授らが発表した研究では、〝信じている誤情報〟の訂正情報の閲覧行動を避けた割合が四三％にのぼったという。明らかな誤情報、かつファクトチェックの機会が与えられているにもかかわらず、その事実を受け入れない人が半数もいたのだ▼社会心理学に確証バイアスという概念がある。自分の思い込みや信念が正しいと信じ、補強する情報ばかりを求め、反証を軽視する傾向である。SNSが発達し、簡単に情報を集められる一方、誰もが発信者となれることで、意図せずに誤情報拡散の片棒を担ぐ危険がある。誤情報が命にも関わるというのは、先の大戦からも明らかであり、自らの持つ情報や自らの信じる人の発信も含めて本当に正しいのか、冷静に情報を見極めなければならない。まずは、この文章自体も本当に正しいのか、検証されてはいかがだろう。（O）

私は、大学三年生のときに被爆者の聞き取りを元に卒業論文を書いていたこともあり、大学院に入って「きのこ会」と出会いました。支援者の遺稿集を読んで、「人間はこんな過酷な運命のなかにあっても、人と人が繋がり、助け合うことでこんなに素敵に生きられるのか」と、当事者と支援者の関係性に心を打たれたのがきっかけです。以来二〇年余り通い続けて、先月、喜寿のお祝いの会をしてきたところなのです。二〇歳まで生きられないと言われてきた人たちが、七七歳になられました。人間の生きる力のすごさを感じています。

◆被爆者、映画とのかかわり

大きなきっかけは、井上ひさしさんの戯曲『父と暮せば』（詳細は後述）です。三〇代のころ、自らが挫折を感じていたときに広島のお好み焼屋で被爆者と出会いました。それまでは、原爆や被爆者イコール暗い、重いという印象があったのですが、実際にお会いしたら、忘れられない痛みを抱えながらも、明るく生き抜いている姿に感銘を受けました。出会いによって当時の自分が支えられた、それをきっかけに被爆者の方々とのお付き合いが今でも続いています。

今回、以前より交流のあった有原誠治監督から映画『声を上げる高校生たち』のナレーションのオファーをいただきましたが、それまで、私は全国高校生平和ゼミナールの存在も知らなかったのです。活動を知って、こんなに頑張っている高校生たちがいるのかとビックリしました。しかも、広島で最初にスタートした一九七八年当時は私もちょうど高校生で、同じ世代が始めて、今も連綿と続く活動に感動し、お引き受けしました。その後、高校生たちの活動の場にも参加するようになりました。

◆転機になったこと

十七歳の頃は女優になりたくて仕方なく、大学には興味がなかったのです。親の「高校だけは出ておけ」という考え方や、当時、優等生の役を演じることが多く「優等生」と言われるのが嫌で、高校二年生で中退しました。その後、結婚や阪神・淡路大震災なども経験しましたが、大きな転機はドキュメンタリー番組の仕事で、タイの山岳民族の方々に出会ったことです。そこで子どもたちと触れ合う中で、夢や勉強をするという意味を考え直して、もう一度学校で勉強したいという思いが芽生えました。

高校中退でしたから、大学受験検定を受けて、その後、三年浪人して東洋大学社会学部に入学しました。ちょうどその頃に、井上ひさしさんから戯曲『父と暮せば』の仕事が舞い込んできたのです。女優もやめようと思って、それ以外の仕事はお断りしていたのですが、『父と暮せば』は過去の公演も観ていて、原爆を扱う作品は暗いイメージですが、『父と暮せば』には最後に希望が描かれていたのが心に残っていました。だから、このお仕事だけはやりたいという思いが強くて、お引き受けしたのです。それから、女優も続けながら被爆者の方々との交流も続いていくことになりました。

◆声をあげる若者たち

今、若い方たちの活躍がめざましいと感じます。中高生も頑張って署名を集めていますが、私なんかは気が小さくて、人に「署名して」となかなか言えません。声を掛けられないでいる高校生たちを見ると、「わかるよ」と共感の思いで涙が出そうになります。

人混みで声をあげるのは大変です。その中で、信号待ちをしている人に一生懸命対話して署名に繋げている高校生の姿を見て、なんて素敵なんだろうか、と感動しました。ファーとした言葉だと通り過ぎていくけれど、そっと言い寄られて声を掛けられる方が足を止めますよね。私が署名活動をするときにも高校生の姿をお手本に工夫して、この人は協力してくれないだろうなぁという人が話を聞いてくださったり、学生の集団に声を掛けたら協力してくれたりと意外な経験もできました。

今夏の原水爆禁止世界大会の最後に、高校生平和ゼミナールの発言がありました。満員の会場、自分の言葉で伝える高校生たちの姿。大事なのはそれをあたたかく拍手で応えた大人たちの姿。その反応を見て高校生たちも嬉しく感じます。若い人は宝だけれど、その背中を押す大人の存在が重要です。高校生平和ゼミナールでも前には立たないけれど後ろで支える人たちがいます。若い人たちに教えてもらいながら、私も自分にできることを続けていきたいと思います。今日はありがとうございました。

・・・・・・・・・・

以上。なお、トークの模様は戦争をさせない石川の会のYouTubeにアーカイブ動画があるので、ご覧いただきたい。あわせて、氏の著書『きのこ雲の下から、明日へ』（ゆいぽおと、二〇〇五年）のご一読もおすすめしたい。

（まとめ　大田健志）

講演要旨

ヤマトンチュとして沖縄に向き合う

―沖縄戦を繰り返さないために―

「遺骨で基地を作るな！緊急アクション！」呼びかけ人

西尾 慧吾

講師の西尾慧吾さん

今日私がお話しする「遺骨土砂問題」は、サブタイトルの「沖縄戦を繰り返さないために」です。沖縄戦の歴史に私たちはどう向き合うかが問われている。

一九四五年四月一日にどうして沖縄での地上戦が始まったのか。当時は一年も前から沖縄に軍隊が配備され、住民を動員して飛行場を増設し、軍と住民の距離を縮めていった。その準備期間を経て地上戦が始まった。

いま再び沖縄を戦場にするような動きに対して、沖縄戦の実体験を通じてヤマトンチュとして今の沖縄問題について考えていきたい。

◆私と沖縄との出合い

二〇一五年高校生のとき修学旅行で初めて沖縄に行った。被爆地の広島や長崎への修学旅行と異なり、沖縄戦の事前学習もせずにリゾート気分だった。しかし戦後七〇年経っても沖縄では戦没者の遺骨収集が行われていた。戦争の爪痕が残っている現実を知ったことが契機となり、沖縄戦について一生懸命学ぶことにした。

◆遺骨土砂問題とは

沖縄戦戦没者の遺骨が残されている沖縄県南部（糸満市、八重瀬町）の土砂を使い、民意に反する辺野古新基地建設が強行されようとしている。私がこの問題を知ったのは、沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」の具志堅隆松さんが二〇二一年三月、沖縄県庁前でハンガーストライキをされたとき。この時は沖縄タイムス、琉球新報はいずれも一面全部を使って報道した。基地建設反対の人だけではなく、戦没者の遺骨を埋め立てに使うことは人として許されない運動として大きく広がった。沖縄県議会の自民党会派も防衛庁に申し入れたり、沖縄県議会では全会一致で意見書を採択した。ところが全国メディアはほとんど報道しなかった。

辺野古の軟弱地盤を埋め尽くすには大量の土砂が必要であり、国は沖縄県内から、しかも戦没者の遺骨・遺品が残された南部地域からその大半を搬出することを決めている。ヤマトンチュとしてこの構造を打破しなければと思ったのが私の行動の始まりである。

◆歴史的・構造的沖縄差別

構造的＝日本の国家・社会の仕組みが、沖縄の犠牲を前提に組み上がっている。沖縄には基地があり、何か有事が起きると基地がある沖縄が犠牲になる。日米安保体制、日米地位協定は沖縄の犠牲なしに成り立たない。

歴史的＝沖縄の犠牲を前提にした同じ構造が、一六〇九年の薩摩侵攻、一八七九年の琉球処分による併合、一九四五年の敗戦で沖縄を米軍の占領下など、形を変えて四〇〇年以上続いている。

差別＝沖縄だけが一方的に、常に犠牲にされる側である。

この状態は現在も継続されているのではないか？

◆必要なのは

ヤマトンチュの覚悟と想像力

私は珠洲市の坂本菜の花さんら沖縄県内外の若者たちと共に呼びかけ人となり、「具志堅さんのハンガーストライキに応答する若者緊急ステートメント（声明）」をウェブで発表した（二〇二一年三月五日）。また四月五日～九日、「若者、ガマフヤーと語る」をYouTubeでオンライン配信し、ブックレットも出版した。

「沖縄戦戦没者の遺骨を含む土砂を埋め立てに使用しないよう求める」自治体意見書運動にも取り組み、沖縄県議会は二〇二一年三月議会で、私の地元の大阪府茨木市議会では同年六月議会で意見書が採択された。具志堅さんが全国の自治体に働きかけたところ、石川県内では金沢市議会が同年六月議会で、坂本菜の花さんらが請願した珠洲市議会では九月議会で、これまで八自治体が採択しており、全国で二三〇自治体を越えている。市議会レベルでは、辺野古新基地建設問題に触れなくても人道上許されない問題として意見書を採択したところが多い。

◆南部土砂なくして

辺野古新基地建設なし

辺野古の大浦湾側を埋め立てるには大量の土砂が必要である。これまで土砂投入から四年で埋め立て地域の投入量は一三％にとどまっており、工事の見通しが立たない。別表（四面参照）からわかるように南部から土砂を採れないと大浦湾側を埋めることができない

から辺野古新基地は完成できない。だから南部地域の土砂を埋め立てに使うか否かは辺野古新基地建設の成否に大きな影響を与える。

◆具志堅さんの言葉

「負ける気がしない」

「勝たねばならない闘い」

今年の六月二三日慰霊の日、「守ろう！戦没者の尊厳＋沖縄県民の命」集会での具志堅さんの発言を紹介する。

「戦没者の遺骨を、血を吸い込んだ南部の土地から土砂を取って埋め立てに使うというのは、戦争の犠牲者への冒涜に他ならないからです。これは絶対許してはいけません。世の中に間違っていると断言できることはそんなにありません。しかし、これは明らかに間違っています。人道上間違っているのです。私たちが沖縄戦から得た教訓というのは、大きくいって二つあります。一つは、軍隊は住民を守らない。そして、軍隊がいる所は軍隊に狙われると言うことです。」

◆正義人道のための闘いを

「沖縄任せ」にしない

遺骨土砂問題も、辺野古新基地建設問題も、全てヤマトンチュが作り出し沖縄に押しつけている問題である。「県知事頑張れ」とヤマトンチュが言うのは無責任。頑張るのは私たちヤマトンチュの方である。

日本政府の姑息な沖縄分断政策こそ最も批判すべきである。「遺骨土砂」の搬出等、沖縄県・具志堅さんらウチナンチュの運動側と沖縄の業者とが分断・対立させられることで、問題が沖縄内部に矮小化されている構図を見極めなければならないと思う。

今日のお話が石川県において新たな火種になればと思います。ありがとうございました。

（まとめ　非核・いしかわ編集部）

◎戦争をさせない石川の会が九月一六日、金沢歌劇座三階会議室で開いた「戦争シリーズ」講演会の講演要旨です。この講演動画は戦争をさせない石川の会HPでYouTube配信されています。

県内の埋め立て土砂採取場所と調達可能量

地区		調達可能量
国頭村		2,340
北部	名護市	9,482
	本部町	
南部	**糸満市**	**31,596**
	八重瀬町	
宮城島		300
宮古島		505
石垣島		480
南大東島		60
合計		**44,763**

（注）南部地域の調達可能量は全体の70.6％を占める

辺野古 埋め立て状況

埋め立て場所	実施済	計画量	達成率
辺野古側	約264	約319	約83%
大浦湾側	0	約1699	0%
全体	約264	約2018	約13%

＊実施済、計画量の単位は万立法メートル

講演要旨

大軍拡・大増税を許さない秋の学習会

自公政権に替わる新たな政権構築の展望を求めて

―岸田政権の「戦争政治」終わらせるために―

纐纈　厚

講師の纐纈（こうけつ）厚（あつし）さん

◆岸田政権の本質

岸田政権の本質を率直に言えば、疑似安倍政権としての軍事国家日本にすることにあります。「死せる安倍、岸田を走らす」に等しい。即ち、多国間軍事ブロックの促進による右傾化・軍事化推進政権であり、反民主主義と憲法改悪による保守反共政権であり、日米軍事同盟絶対化による重武装・同盟依存政権であり、国民不在の権力政治による資本利益優先政権だということです。

先ず①「戦争できる国」から「戦争する国」への大転換について述べます。

集団的自衛権の行使容認と新安保法制等により、「戦争のできる国家・日本」に変質することは、軍事大国化への第一段階です。「日米豪印戦略対話」（通称ＱＵＡＤ）による四カ国の相互運用機能の高度化は、軍事大国化の第二段階です。防衛費大増額や敵基地攻撃能力保持の具体化、ＮＡＴＯとの連携によるアジア版ＮＡＴＯ体制の構築から、将来的にＮＡＴＯ＋インド太平洋軍事同盟による対中国・対ロシア封じ込め＝「戦争する国家・日本」に変質することは、軍事大国化の第三段階

と言えます。

②「統合司令部」（＝戦争指導部）設置は、指揮命令の流れが、首相・防衛相が自衛隊に対してより直轄的なものになることを示します。

③「アジア版ＮＡＴＯ」構想の危うさについて述べます。首相の欧州とインド太平洋の安全保障が切り離せないという認識と「ウクライナは明日の東アジアかもしれない」という危機感の表明は、米国主導の戦争に常時参戦することに連なるものです。しかしロシアとウクライナの関係を中国と日本の関係に置き換えるのは、歴史的にも政治的にも根本的な間違いです。

④軍事同盟強化に基礎を置く防衛外交は極めて危険だということです。多国間軍事同盟は自動参戦条項となって戦争の呼び水となるということです。日英同盟が日露戦争を、日独伊三国同盟がアジア太平洋戦争を呼び込んだ歴史事実と向き合う必要があります。

◆拍車かかる岸田政権の〝戦争政治〟

防衛費の増額は世界第三位の軍事大国となることを意味し、反撃能力の保有は「専守防衛」の放棄と先制攻撃戦略の導入に連なり、「安保三文書」は軍事国家日本への明らかな公式宣言であり、防衛産業強化法は武器輸出解禁と「死の商人」国家日本の誕生となり、南西諸島へのミサイル基地設営は日米軍事一体化と在日米軍の強化となるものです。

「軍事には軍事を」は危険で愚かな路線です。「軍事には外交を」でなければなりません。以下の点を注視します。

①防衛費の大増額は国民の暮らしを無視した防衛利権が絡むものであり、軍事大国は貧困大国の道であることを見ておくことです。安倍政権以降、軍事予算は増加の一途をたどり、殊に岸田政権二年目の二三年度以降は概算要求の段階で青天井の状態になりました。既に日本のＧＮＰはこの三〇年間成長が止まり、世界に占める日本のＧＮＰ比率は九〇年代半ばに一八％程度あったものが六％になりました。同時に一二〇〇兆円もの借金を抱えています。

②憲法と国連憲章に違反する反撃能力の保有も大問題です。敵基地攻撃能力への転用が想定される主なスタンドオフ（敵の対空ミサイルの射程外から発射が可能な）ミサイルには極超音速誘導弾や高速滑空弾などがあり、政府は一発五億円もするトマホークの四〇〇発購入（日本は高額で購入）を決定し、南西諸島への配備を進めています。そしてその米国側の狙いは「中国の（米国本土への）ミサイル攻撃の第一撃を確実に吸収できるようにすること」だと二〇一六年に大統領補佐官が明かしています。これはとんでもないことです。

③ロシア・ウクライナ戦争を奇禍として日本の安全保障の基本をどこに置くか。これをヒント・教訓にせねばなりません。この侵略は、ＮＡＴＯの多国間軍事同盟の対ロシア抑止力が機能不全だったこと、賛否があるもののウクライナのＮＡＴＯ未加盟がロシアの侵略の要因とする分析には過ちがあり、ＮＡＴＯの対ロシア恫喝（東方拡大・東方浸透）の負の帰結として戦争を誘発した面を見なくてはなりません。

冷戦終結後、旧ソ連を含む東欧諸国も次々にＮＡＴＯに加盟し、ウクライナも加盟を希望し、ロシアがＮＡＴＯ「不拡大」の確約を要求するなかで、米国は「ウクライナの主権を尊重する」との立場でした。しかし「核兵器の先制使用はしない」という約束が、結果的に通常戦争となってしまったことについては、深く検討を要します。

◆岸田政権はどこに向かうのか

日本を危険な方向に追いやる岸田政権の正体は内閣支持率の低下で証明済みと言えます。「聞く力」を示さず「逃げる力」を増す政権に私たちは「追いかけ・追い越す力」を発揮すべきです。戦争政治を阻み、自公政権に替わる連合政権樹立のためには、平和と民主主義を求める護憲運動の活性化が不可欠です。その運動を最大化・最適化するためには「野党共闘」（＝護憲運動）が強く求められます。それには全国革新懇の次の三つの共同目標が重要です。

①軍事大国化の帰結である貧困大国化ではなく、経済を国民本位に転換し、暮らしを豊かにし、②護憲運動の深化により、日本国憲法を生かし、自由と人権と民主主義を発展させ、③非核・非同盟・中立の立場で日米安保条約をなくすこと。これらが大切です。

岸田自公政権は、疑似安倍政権として国民生活を蔑ろにしつつ、対米従属政治を続けてきました。それは神話（絵空事）としての抑止論と、戦争を呼び込むものでしかない軍事同盟論を口実に「戦争する国」に向かってひた走ってきた道です。それによって日本は「準戦時体制」に入り、危険な事態に立ち至りました。そうではなく日本は、抑止力神話と同盟信仰論から脱却し、平和・中立・非同盟の道を歩まねばなりません。

「戦争が廊下の奥に立ってゐた」（渡辺白泉）

「戦前の一本道が現るる」（三橋敏雄）

（まとめ　非核・いしかわ編集部）

◎九月三〇日に石川憲法会議ほか三団体が主催した講演会の講演要旨です。この講演動画は戦争をさせない石川の会ＨＰでYouTube配信されています。

非核石川の会リレーエッセー

失われた30年
――地方都市の現実

永山孝一

いまやスマホの世帯所有率は八割を超えたといわれる。印刷・出版の世界も紙書籍からペーパーレスな電子書籍へと移行しつつあるようだ。情報通信技術の発展によりメディアの世界は広がり、新聞雑誌やテレビなどマスメディアの時代から、パーソナルメディアの時代へと急速に移り変わってきた。こうして情報通信技術の「発展」で昭和の本屋さんもシャッターを降ろしている。

また、名鉄は「金沢市で『めいてつエムザ』を運営する子会社の『金沢名鉄丸越百貨店』と『ＡＮＡホリデイ・イン金沢スカイ』を運営する子会社『金沢スカイホテル』（いずれも金沢市）の全株式を、ディスカウントスーパーを運営する『ヒーロー』（茨城県牛久市）に譲渡すると発表」（中日新聞二〇二一年三月九日付）。すでに三年余りとなるコロナ禍が襲ったのである。

さらにバブル崩壊から「失われた三〇年」といわれるが、とりわけ日本では金融状況の激変の中で地方銀行は多くの支店やＡＴＭを廃止統合してきた。一方では、二〇二一年に北陸高速道路白山インター付近にオープンした〝イオンモール〟には、全ての地方銀行とイオン銀行のＡＴＭが置かれている。ショッピングモールは昭和の「商店街」であるが、スケールが北陸レベルのイオンモールには、ともするとどこに駐車したかわからないほど巨大な「無料」駐車場が整備されている。

交通という都市機能から見ても、わが国の地方都市はもっぱら「私的な」自動車交通に依存してきたのであり、地方都市の私的モータリゼーションとその維持費用はすべて国民の労働時間に委ねられていることは一目瞭然だ。いわば中央集権と地方自治のせめぎあいの中の国土計画によって、首都圏一極集中と地方都市の遅れた移動様式が地方の文化的な前進を阻んでいるともいえよう。

YouTube 奮闘記

神田順一

戦争をさせない石川の会では、「戦争シリーズ」講演会を定期的に開催しているが、昨年七月の池内了さん講演会「ウクライナ侵攻から平和を考える」からビデオ撮影して YouTube にアップすることになった。

私はこれまで講演会等のビデオ撮影の経験はあったが、動画制作は初めてである。貴重な機会となったので YouTube 奮闘記をまとめてみた。

戦争をさせない石川の会 YouTube

開催日	講師・演者	役職名
2022年7月31日	池内　了	名古屋大学名誉教授
2022年11月5日	ロニー・アレキサンダー	神戸大学名誉教授
2023年5月20日	猿田佐世	新外交イニシアティブ代表・弁護士
2023年9月16日	西尾慧吾	｜遺骨で基地を作るな！緊急アクション！｜呼びかけ人
2023年9月30日	纐纈　厚	山口大学名誉教授
2023年10月1日	斉藤とも子	俳優
2023年10月14日	のまりん（野間成之）	のまひょうしぎの会主宰

まず戦争をさせない石川の会の Google アカウントを作成して YouTube チャンネルを設定する必要があり、本紙編集委員の大田健志さんやＨＰ管理者の支援を受けて無事設定することができた。

次に二時間の講演会をビデオ撮影すると約三〇分単位で四～五個に分割される動画を一本化する必要がある。別表にある池内さん、ロニーさん、猿田さんの講演ではその都度、大田さんにビデオカメラを届けて一本化してもらった。しかしこれでは煩雑なため、パソコンに内蔵されている「ビデオエディター」の使い方を教えてもらい、その後の講演会は何とか（自力で）処理できるようになった。

しかし、二時間の講演動画を YouTube にアップするための「動画のアップロード」は三時間余、「動画の処理」は二〇分程と聞いていたが、実際には二四時間以上かかる場合もあり、閉口している。これは次回以降の改善点である。

この度、YouTube の公開方法には選択肢が三つ（非公開、限定公開、公開）あることを知った。限定公開とは YouTube 動画のＵＲＬを伝えた人だけが視聴できるもので、これで録画データをＤＶＤに複写して配布する手間を省くことができるようになった。

このようなパソコン技術の習得には信頼できる知人や専門家の存在は不可欠であり、何度もの照会事項に的確に答えていただいた。深謝致します。

・・・・・・・・・・・・

別表の「戦争をさせない石川の会 YouTube」はいずれも（公開）されており、戦争をさせない石川の会ＨＰ（nomorewar-ishikawa.com）にて視聴をおすすめしたい。

◆トピックス◆
核禁条約批准が六九か国に
署名は九三か国に

核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）のウェブサイトによると、九月一九日、核兵器禁止条約に新たにスリランカが批准し、批准国は六九か国になりました。

また同日、バハマが核兵器禁止条約に署名し、署名国は九三か国になり、国連加盟国（一九三か国）の過半数まであと四か国になりました。

ロシアの核兵器使用の脅しに抗して核兵器禁止条約の署名国、批准国が増えたことにつき、メリッサ・パークICAN事務局長は、「最悪の大量破壊兵器に反対するもっとも強力な国際規範の権威を高めた」「ウクライナでの戦争や朝鮮半島の緊張激化で、世界が冷戦以降でもっとも核戦争が近づいている時に、核兵器禁止条約は特に必要とされている」とコメントしました。

詩人会議かなざわ「独標」より

20分あるなら―

ななお瑠津

久々の休み
街へ出かけましょう

クローゼットをひっかきまわして
服を決め
帽子もいいわね
アクセサリーも　これでよし
いざバス停へ

バス停から
バスの背中が小さく見えた
さてと　次の時間は20分後
20分あるなら
歩いて行きましょう

まだ頬に冷たい風をうけ
坂道を下り
山に残る雪にしばし見とれて
橋を渡り
古い商店街を横切るわ

ウィンドウに並ぶ
モードなファッション
ウィンドウに写る
レトロな私

20分あったなら
歩いて行きましょう

レトロな私
背筋を伸ばして
颯爽と歩きましょう

編集室より

◎辺野古「代執行」訴訟、統一協会解散命令請求、NGリスト、万博五輪辞退延期、虐待禁止条例撤回、大阪IR、手術要件違憲無効など、重要ニュースは目白押し。とりわけ〝ガザ地区の戦闘激化〟は埋もれさせる訳にいかない。中東和平をめざすうえで重要なのは①イスラエルの占領地からの撤退、②パレスチナ独立国家の樹立含む民族自決権の実現、③両者の生存権の相互承認―の三つの原則。これは国連決議などで認められた国際社会の合意です。これにつながる交渉を通じてのみ、紛争を終わらせることができます。この事態は暴力によって何も解決しないことを改めて示しています。双方が自制し、暴力の連鎖を止めるあらゆる外交努力が各国と国際機関に求められています。気が気ではありません。（中）

非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	行事予定	会場
11	3	金・休日	14:00	平和憲法公布77周年記念石川県民集会／小西洋之さん	金沢市香林坊・石川県教育会館ホール
	11	土	9:30	日本中国友好協会石川県支部／講演と中国映画「胡同（フートン）の理髪師」鑑賞のつどい／村田和弘さん	金沢市青草町・近江町いちば館4階集会室
	11	土	13:00	日本平和大会in鹿児島（～12日）	鹿児島市内／オンライン併用
	23	木・休日	12:00	核禁条約署名石川県連絡会結成2周年記念・街頭キャンペーン／リレートーク	金沢市武蔵町・金沢エムザ前
	27	月		核兵器禁止条約第2回締約国会議（～12月1日）	米国・ニューヨーク・国連本部
12	2	土	14:00	戦争をさせない石川の会講演会／熊谷伸一郎さん	金沢市香林坊・石川県教育会館2階会議室

＊会報「非核・いしかわ」サポート会員を募集中です。年会費2，000円

戦争遺跡と平和の記念碑 ⑩

「軍都金沢」と第九師団

佐藤公男

明治五年（一八七二年）金沢城跡に名古屋鎮台を分営、同八年歩兵第七連隊を設置し同二七年の日清戦争に出兵、同三一年陸軍第九師団司令部を設置。同三七年日露戦争での第九師団死傷者は一万一五七九人（県内二八三七人）。日中戦争、アジア太平洋戦争の県内戦死者は二万六六一五人となった。金沢城、兼六園、出羽町、平和町、野田町一帯には第九師団関連施設「被服倉庫、兵器庫、偕行社、司令部庁舎、金沢工兵営跡、騎兵部隊之跡、松脂採取跡、金沢駐屯地内」が多く残されている。詳しくは『記憶の灯り 希望の宙へ』を参照ください。

昭和3年4月天長節（天皇誕生日）、親兵式出門の第九師団と石川門（絵はがき）

松脂採取跡（兼六園）

一九四五年六月軍用飛行機の燃料とすべく松の幹からも松脂採取が始まった。

ラジオ塔（兼六園）

梅林（兼六園）旧長谷川準也邸（二代目金沢市長屋敷跡）

昭和四年（一九二九年）五月五日旧長谷川邸で労農党・社民党共闘の石川県初のメーデーが開催された。金沢・高松・宇出津・七尾から約三〇〇名参加、「婦人・少年工の夜業廃止」など八か条を決議、警官が警戒する中ビラを配り、メーデー歌を高唱しながら市内をデモ行進した。同一八年ヒトラーユーゲント（ナチス党青少年組織）一行の歓迎集会場として使用し、食糧増産のため県立金沢第一女学校生徒が一帯をソバ畑として開墾した。

旧長谷川準也邸

金沢衛戍拘禁所（金沢城跡極楽橋付近）

〝鶴彬〟は昭和五年（一九三〇年）一月二一歳で歩兵七連隊入営、古兵による暴力に対し「なぐらない同盟」組織に着手、「無産青年」が見つかり治安維持法違反で軍法会議にかけられた（金沢第七連隊赤化事件）。同六年大阪衛戍刑務所に移送されるまでの約半年間、金沢衛戍拘禁所に収監された。大阪で二〇か月間服役し同八年二等兵で除隊、同一二年一二月二八歳で野方署に留置、翌年九月赤痢で未保釈のまま淀橋区豊多摩病院で死去する。

（「平和工房・江沼の郷」主宰）

金沢城跡極楽橋付近

絵手紙コーナー

金沢医療生活協同組合
絵手紙班　坂本朋子

会費納入のお願い

非核石川の会の会費未納が続いている団体・個人の方に案内文を同封しました。本会の活動を支える財政確立のためよろしくお願いします。